小学4年生時の体格へ影響する出生体重と性差の検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2018-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 眞鍋, 正博 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3267

DOHaD 研究（ISSN 2187-2597）
2017 年 第 6 巻 第 1 号　56 頁

小学 4 年生時の体格へ影響する出生体重と性差の検討

○眞鍋正博
キッズメディカルまなべ

【目的】胎生期環境、出生体重や小児期の発育状況が望ましくない場合は、小児期及び成人期のメタボリックシンドローム、糖尿病、心臓循環器疾患、高血圧、精神発達異常の発症率が高いことが明らかとなってきた（DOHaD 説）。SGA（small for date）児で身長の伸びない場合には成長ホルモンを投与して対応している。しかし、出生体重が小学生の体格の発育に影響しているかの詳細な報告はない。

【方法】高松市の小学 4 年生全員を対象とて、出生体重の調査は生活習慣病検診のアンケート調査にて行った。出生体重別に 5 群に区分（A 群：2500g 未満、B 群：2500g 以上 3000g 未満、C 群：3000g 以上 3500g 未満、D 群：3500g 以上 4000g 未満、E 群：4000ｇ以上）して、小学 4 年生（現在）における身長・体重・BMI との関連性を、性差を含めて検討した。対象児は男児 21,578 人（1,570、6,894、9,809、2,990、315）、女児 20,846 人（1,955、8,154、8,522、2,019、196）である。各区分の検定は Mann-Whitney U 検定を用いた。

【結果】出生体重のアンケート回収率は 89.6%であった。現身長は、出生体重が重くなると共に高くなり、E 群を除き各群で女児が高かった。現体重は、出生体重が重くなると共に重くなるが、男女児間で差は無かった。現 BMI は出生体重が重くなると共に大きくなり、E 群を除き男児が大きかった。以上から、①出生体重の増加に従い身長、体重、BMI が増える。②E 群以外の各群で身長は女児が大きく、BMI は男児が大きいという性差を認めた。③4000ｇ以上では、それ以下の群とは身体発育に差がある可能性が示された。

【結論】出生体重が小学 4 年生時点で児の体格形成に影響していることが示された。またこの時点での体格には、E 群を除き女児の身長は高く、男児の BMI がより多きいという性差のあることが判明した。